

1/2成人式を考える

- ◇ 山口県では、キャリア教育の視点から、第4学年で「1/2成人式」を行うことが推奨されています。このことに影響を及ぼすであろう法案が可決しましたのでお知らせします。それは、次の記事です。

成人年齢を現行の20歳から18歳に引き下げるとともに、女性が結婚できる年齢を16歳以上から男性と同じ18歳以上にする改正民法は13日、参院本会議で自民、公明、維新などの賛成多数により可決、成立した。施行は2022年4月1日。成人年齢の見直しは、1876（明治9）年の「太政官布告」で満20歳とされて以来、約140年ぶりとなる。



このことの何が問題かという点、**「2022年から1/2成人式は3年生で行うことになる可能性がある」ということ**です。もう少し先の話ですが、このことを知らずにいると困ることが起こってくる可能性があるわけです。もし2021年まで4年生で1/2成人式を行い、2022年から3年生で1/2成人式を行うとなると、2021年に3年生となる子どもたちは、1/2成人式を経験しないままになってしまうということです。そこで2020年までに次のことを考えておかなくちやいけないかなと思っています。

『2020年までに、どの学年で1/2成人式を行うのか決めておく』こと。

- ◇ そもそも、この1/2成人式は、文部科学省が定める学習指導要領に示されているわけではなく、20年くらい前に、兵庫県のある小学校の先生が4年生の担任をした時、「高学年への門出」という意味を込めて始めたイベントだといわれています。そのことから考えれば、「思い切って1/2成人式そのものをやめる」ことも選択肢の一つとしてあげてもいいのかもしれませんが、しかし、山口県は、キャリア教育の一環としてこの1/2成人式を推奨しています。そうである以上、山口県で1/2成人式をなくすということはなさそうですね。ただ、この1/2成人式には、「親への感謝を強制するのは教育か？」や「児童虐待を受けている児童への配慮がなされていない」「家庭によっては生い立ちを振り返る行為自体が苦痛を伴う場合がある」などという批判があることも忘れてはいけません。そのため、1/2成人式を行う際には、それなりの配慮を忘れないようにしなければいけないのかもしれませんが。

◇ 前述したように、始まりが「高学年への門出」であっても、これまで続いてきたということを考えると、何かしらの意義があるのかもしれませんが。これまでの育ちを子ども自身が振り返ることや、これまでの育ちを支えてくれた人への感謝の気持ちを再確認することによって、子どもたちをどのように育てたいのか、という点で考察してみたいのかもしれませんがね。

そこで考えられるのが、次の2つの方法ではないでしょうか。

- ① 「1/2成人式」という名称を残し、3年生で実施する。
- ② 「1/2成人式」という名称を変えて、2022年以降も4年生で行う。

そのためのポイントが「1/2成人式の意味」にあると考えます。つまり、1/2成人式は「成人式の半分で行う」ことに意味があるのか、4年生で行うことに意味があるのか、ということです。私の個人的意見を述べると、このイベントには「10歳の壁を乗り越える」という意味があると思っています。ですから、時期については4年生でやった方がよいということです。ただ、これは、一回イベントをやっただけで解決する簡単な問題ではありません。10歳というと、思春期にはまだちょっと早く、本格的な反抗期でもないものの、なんだかちょっと扱いづらくなる時期です。つまり、心の変化や成長が著しくなり、「友だちと比較して劣等感を抱きやす」くなったり、「具体的思考から抽象的思考へとシフトして」いったりするといわれています。この時期を乗り越えさせるわけですから、ある程度の長いスパンで考えないと難しいだろうということです。学校現場を見てみると、「1/2成人式では、何ができるようになったかを発表する」「親への感謝の手紙を書く」という内容のイベントだけを行っている学校がとても多いように思います。

◇ ちなみに、多くの自治体は、「この法律が施行されても、成人式は二十歳で行う」という方針のようです。

◇ 私たちは、つい、「去年までやっていたから…」という理由で行事続けてしまうことがあります。子どもたちを本気で育てたいと考えるならば、そういう行事の在り方も考えてみる必要があるのではないかと考えています。

この法律の施行をきっかけに、これまで慣例によって1/2成人式を行っていた学校は、その在り方をよく考え、どういう取組を行えば子どもたちが「10歳の壁」を乗り越えることができるのか、見直してみるチャンスかもしれませんね。

文責：スギタ